第9回
留学生による日本語作文コンクール

入選作発表
2002年 9 月

主催・大阪鶴見ロータリークラブ
協賛・関西国際学友会日本語学校

大阪鶴見ロータリークラブ
国際交流基金について

1989年２月、当クラブは、RI第2660地区のインターシティ･ゼネラル･フォーラム（IGF）第６組の主催クラブとなり、そのテーマに「留学生問題を考える」を選定。大阪市立大学前学長木村英一氏にコーディネーターをお願いし、関西国際学友会専務理事浦野吉太郎、大阪市立大学教授佐藤全弘の両氏を講師として「留学生をめぐる現場から」という演題の基調講演をして頂いた。

またそれに引き続き、大阪大学、大阪市立大学、大阪府立大学、神戸大学、関西大学、関西国際学友会日本語学校よりの男女計35名の留学生を囲むバズセッションを13クラブ約300人のロータリアンの参加で開催して、留学生に関する認識を深めることができた。

このIFGが契機となり、同年７月の創立５周年記念事業の一環として当クラブ独自の国際交流基金の設立が決議され、クラブ内で募金を開始した。基金の事業目的は「外国人に対する日本語教育の振興による国際的相互理解の推進」と定められた。

創立10周年を迎えた1994年、基金の利息と年度内の募金を原資に、上記事業目的に添って運営を開始したものである。

関西国際学友会日本語学校生による
日本語作文コンクール

当クラブは例年、鶴見区民まつりに「国際交流コーナー」で参加、地域社会とのふれあいを深めている。この催しには、第2660地区への青少年交換学生とともに関西国際学友会日本語学校生も招待されている。

同校と当クラブは、上記IGFを含めて特別にご縁があり、国際交流基金運営の最初の事業として、同校の学生を対象に日本語作文コンクールを開催することになった。

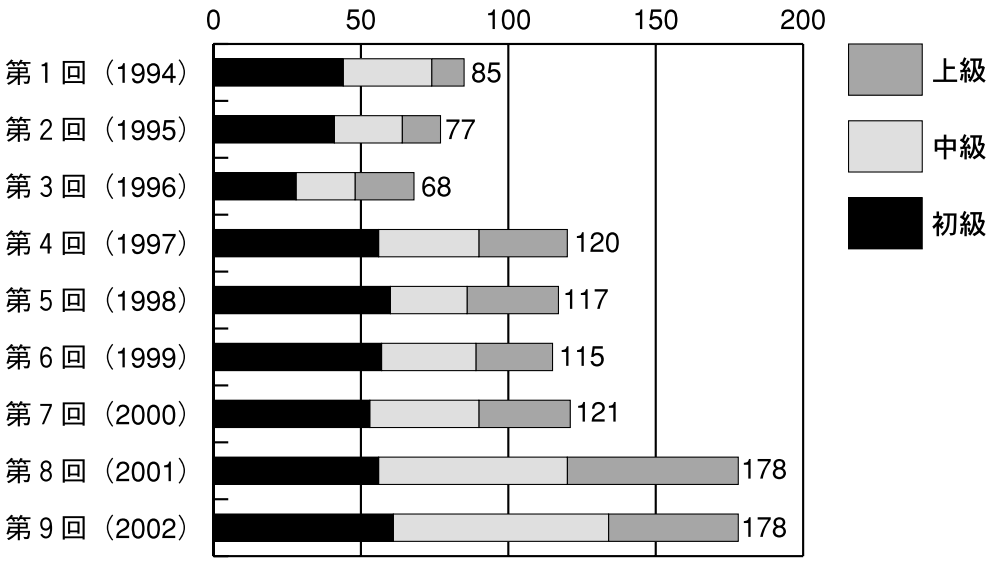
このコンクールは1994年を第１回とする５年間の継続事業であったため、1998年をもって当初の企画を終了したが、是非継続をと希望する声が多く、さらに５年間延長して実施することとなった。本年はその継続第４回にあたる。

関西学友会　日本語学校　留学生参加

日本語作文コンクール応募者数の推移

	初　級	中　級	上　級	総　数
第１回（1994）	44	30	11	85
第２回（1995）	41	23	13	77
第３回（1996）	28	20	20	68
第４回（1997）	56	34	30	120
第５回（1998）	60	26	31	117
第６回（1999）	57	32	26	115
第７回（2000）	53	37	31	121
第８回（2001）	56	64	58	178
第９回（2002）	61	73	44	178

大阪鶴見ロータリークラブ 国際交流基金運営委員会（2002 年７月１日）



第9回作文コンクール入賞者

初級

最優秀賞

姜　滨（中国）キョウ ヒン
「日本、肌で感じてわかってきた国」

優秀賞

孙　腊美（中国）ソン ナミ
「はじめての日本」

バラローズ・ロハチット（タイ）
「考えたことがありますか」

中級

最優秀賞

劉　臻婕（中国）リュウ シンショウ
「窓の外の友達」

優秀賞

VUTHE JUE UHANG（ベトナム）
ブティ ジュ ウハン
「日本語が好き」

姜　衍（中国）キョウ ケン
「シンデレラ」

上級

最優秀賞

李　順（中国）リ ジュン
「留学生活と私の理想」

優秀賞

裴　暁阳（中国）ハイ ギョウヨウ
「舞台面の輝き　舞台裏の汗」

牛　童（中国）ニュートン
「楽しい地球村を作ろう」

審査員特別賞

イム シープ（カンボジア）
「親しい友達を作りましょう」

初級参加者 61名

庄　義星（中国）
禹　賢奸（韓国）
金　広玉（中国）
會　美齡（中国）
孙　腊美（中国）
金　金金（中国）
丁　瑪迪（中国）
許　鐘福（韓国）
高　雪（中国）
馬　茹（中国）
バラローズ・ロハチット（タイ）
韓　珠明（中国）
薛　超（中国）
楊　岳樺（台湾）
姜　苹苹（中国）
吳　英哲（中国）
張　良君（中国）
莊　静怡（台湾）
李　亜勲（台湾）
权　永錫（中国）
姜　滨（中国）
韓　徳海（中国）
徐　奇美（中国）
魯　楊（中国）
張　楊（中国）
刘　佳（中国）
陳　怡君（台湾）
王　紅平（中国）
王　小隆（中国）
陸　旖文（中国）
王　喆（中国）
范　暁舟（中国）
ダヤナ（ペルー）
小笠原・アナパウラ（ブラジル）
張ハンウル（韓国）
スギアント（インドネシア）
翁　勇（中国）
梅　雪明（中国）
修　光偉（中国）
陳　漢聲（台湾）
エヴァ（インドネシア）
李　礼（中国）
刘　孫強（中国）
王　晴（中国）
廬　静（中国）
デビセッティ・ベンカタラマ・ナヴィーン（インド）
崔　斌（中国）
チィ チョムナ（カンボジア）
于　波（中国）
シリファン　サグァンポン（タイ）
タン・ワントン（カンボジア）
アントニー・ガトック（フィリピン）
ショカット・ジハン（パキスタン）
デバシシ・ダス（インド）
肖　华杰（中国）
沈　正波（中国）
タン　ダラ（カンボジア）
シリパクディー　サシパン（タイ）
ササンバートル　バヤンセンゲル（モンゴル）
LIM CHING FU（マレーシア）
KHANNA ABHISHEK（インド）

中級参加者 73名

王　　健（中国）
賈　子巍（中国）
高　柔晶（韓国）
石田美智子（日本）
郭　呂瑋（台湾）
邱　奕甄（台湾）
欧　建良（台湾）
林　彦君（台湾）
朱　　穎（中国）
崔　　玟（韓国）
黄　建生（台湾）
周　　寧（中国）
李　　婧（中国）
吴　初平（中国）
姚　　亮（中国）
劳　昕甜（中国）
徐　　爽（中国）
陳　永晶（中国）
SRIVASTAVA GAURAV（インド）
朱　　茗（中国）
張　旭蕾（中国）
VUTHE JUE UHANG（ベトナム）
傅　　涛（中国）
姜　　衍（中国）
梁　瀟芸（中国）

陳　一飛（シンガポール）
李　昕昀（台湾）
KAK SOKEAN（カンボジア）
李　宾詩（中国）
王　菲菲（中国）
巫　尚儒（台湾）
馮　　亮（中国）
陳　　徳（中国）
陳　　佳（中国）
陳　　迎（中国）
AMIN MUHAMMAD RUHUL（バングラデシュ）
曲　媛媛（中国）
曲　暁博（中国）
張　麗彦（中国）
ENKHBAATAR BURGAN（モンゴル）
鄭　光惠（台湾）
杜　　娟（中国）
劉　臻婕（中国）
張　茵嘉（台湾）
陳　広宣（中国）
周　　菁（中国）
荘　翊偵（台湾）
姜　沅青（中国）
李　　冉（中国）
王　梅芳（中国）

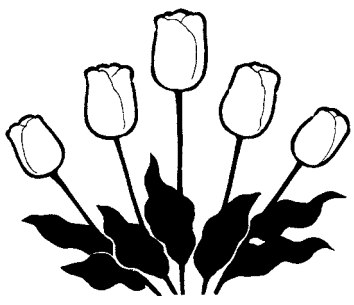
チットパソン クンサワット（ラオス）
リン フォン ション（マレーシア）
張　新暁（中国）
王　　峥（中国）
呂　　茜（中国）
姜　世眞（韓国）
金　美姫（韓国）
黄　小那（中国）
刘　　芬（中国）
陳　郁淳（台湾）
丁　　婕（中国）
蔡　宜君（台湾）
チーエ　ミエン（カンボジア）
趙　　征（中国）
ヘイン　ダラ（カンボジア）
李　　娅（中国）
于　晶晶（中国）
金　晟銀（韓国）
丁　　敏（中国）
武　紅丽（中国）
陳　天星（中国）
李　潤錫（韓国）
玄　景守（韓国）

上級参加者 44名

林　雁皋（中国）
NGUYEN VIET PHUONG（ベトナム）
蘇　逸箴（台湾）
廖　君惠（台湾）
王　卓娅（台湾）
薛　　浩（中国）
孟　阿楠（中国）
薛　慧勇（中国）
李　革平（中国）
孫　　贇（中国）
王　　巍（中国）
方　宇華（中国）
高　友晗（中国）
イム　シープ（カンボジア）
裴　暁阳（中国）
王　賽男（中国）
万　姝麟（中国）
郎　　娜（中国）
方　楚涵（中国）
朴　有眞（韓国）

李　　捷（中国）
洪　姈志（韓国）
李　　順（中国）
姜　　漪（中国）
王　昊梁（中国）
李　　泉（中国）
徐　源江（中国）
姜　延達（中国）
刘　一宁（中国）
張　　煜（中国）
閆　　岩（中国）
刘　恩阳（中国）
グファフー　ジャルガルマ（モンゴル）
張　　音（中国）
王　乾宇（中国）
チアゴ・ホサト・アグア（ブラジル）
王　傢钰（中国）
王　冠英（中国）
牛　　童（中国）
クアク　バリリ（コートジボアール）

HOUNSOU MICHEE（コートジボアール）
KONG YUT CHUNG（イギリス）
黄　　晶（中国）
高　　麗（中国）



日本、肌で感じてわかってきた国

姜　滨（中国）キョウ ヒン

最優秀賞（初級）

むかし、日本はわたしからとおくてよく知らない国でした。日本といえば、東芝、松下、富士などの会社の名前と、富士山、さくら、しんかんせんを書いた風景の絵と、「中日戦争」しか思い出しませんでした。

一年前、わたしのおっとはりゅうがくせいとして日本に来ました。そのときから、わたしは日本のことを注意して考えていました。テレビから、しゅじんからの手紙から、いろいろの本から、日本のことがたくさんわかりました。日本はそのような国でしかありません。行かなくてもよくわかると思っていました。

今、わたしが日本に来てからもう一か月半になりました。日本語がまだよくわからないけれど、日本のことを肌で感じることが多くなりました。日本に来る前に思っていた日本と日本に来てから見た日本はぜんぜんちがいます。

国で思っていた日本は小さい国でした。日本に来て見ると、日本は本当は小さい国ではありません。北から南までのきょりは三千キロあります。面積から見れば、ドイツ、フランスなどの国より、日本のほうが大きいです。一億三千万の人口もとても大きい数です。

日本は先進国です。これはわたしがむかしから知っていることです。先進国といえば、立派なたてもの、広いみちを思い出します。けれども、日本には立派なたてものだけでなく、あんまりよくないたてものもたくさんあります。せまいみちを多すぎる自動車が「歩いています」。わたしは日本人はみんなお金持ちだと思っていました。しかし、日本に来てから、日本のたくさんの人々のまずしさがわかりました。はしの下やこうえんのいすでねている人までいます。わたしはびっくりしました。

日本に来る前に、わたしは日本人がじぶんの国の材木を使わないで、おはしまでほかの国の材木でつくるのがりかいできませんでした。それは利己的なことだけでなく、人件費が高いので、国産のはたかくなるからです。

日本に来る前に、わたしが知ってい

た日本人は軍国主義時代の日本人、人にきびしくて、わるいことをいっぱいした人たちでした。日本に来てから、わたしは日本人のやさしさとしんせつさがよくわかりました。

日本に来る前に、わたしはどうして日本ははったつしている国で、中国ははったつしていない国なのかというもんだいを考えたことがありました。日本に来てから、わたしは日本人のまじめさとみんないっしょうけんめいはたらくことを知りました。こんなろうどうしゃがいるから日本ははったつしている国になったのです。これはおかしくないことです。

これはわたしが見て考えた日本のことです。思ったよりげんじつのほうがいいです。むかしりかいできなかったこともわかるようになりました。わたしはちゅうかという大国の人間です。日本のことをじぶんで見て考えて、じぶんの国のこととくらべると、じぶんの国のことのほうがよくないところが多いです。けれども日本はわたしの国じゃありません。わたしがもっとあいしているのは中国です。日本にはいいてんが多いから、わたしは日本へりゅうがくに来ました。「相手のことをりかいし、先進のことをまなびます。」これはりゅうがくの意義でしょう。わたしはそう思います。

はじめての日本

孫　腊美(中国) ソンナミ

優秀賞（初級）

今年四月四日、わたしははじめて日本に来ました。わたしは日本のことばや文化や風俗習慣などがしりたいです。けれども今わたしはかんたんなことばをつかいましたが、日本人のへんじはぜんぜんわかりませんでした。ですから日本のいろいろなことがよくわかりませんでした。そのほか、日本の科学技術はとても進歩していると思いますから、わたしはあたらしい技術べんきょうしたいと思います。

日本語はたいへんおもしろいです。日本のことばはひらがなとかたかなとかんじをつかいます。そのほか、たくさん外来語があります。中国人がならうときにはおもしろいじじょうがあります。日本語のかんじのかきかたと中国語のかんじのかきかたは同じです。けれどもあるときはいみがぜんぜんちがいます。

たとえば「娘」です。日本語の中で「おじょうさん」といういみですが、中国語の中で「おかあさん」といういみです。そのほか、日本語の文のいみは場合によってたいへんちがいます。一どおもしろいことがありました。わたしはともだちといっしょにはんきゅうデパートへ行きました。デパートの人は「いかがですか。」といいましたが、わたしは「げんきです。」といいました。デパートの人はぜんぜんわかりませんでした。けれどもあることばのいみは中国語と同じです。中国の成語はにちじょうかいわの中でよくつかわれています。たとえば、「四面楚歌」や「百発百中」などです。

日本ではお寺がたくさんあります。日本人は神様を信じる人が多いです。祭り、いろいろな行事などみんな神様とかんけいがあります。でも、なぜ日本のような先進国で神様を信じる人がこんなに多いのか不思議でした。日本のお寺はたいていしずかなばしょでした。わたしは日本の初もうでの様子を見たいです。わたしも初もうでに行くつもりです。そうして、かぞくのけんこうとこうふくを、お祈りするつもりです。

わたしは日本料理はあまりすきじゃなかったです。たとえばさしみ、日本

人はさしみがたいへんすきです。わたしは今まだたべません。とにかく外の日本料理も一度たべてみようと思います。けれども、日本人と中国人は食のしゅうかんが同じです。たとえばたべるときは中国人も日本人もはしをつかいます。日本人も中国人もギョーザやラーメンやしせん料理やマーボードーフなどがすきです。日本には中華料理のみせがたくさんあります。このたべものはたいへんおいしかったです。

日本の科学技術はとても進歩していると思います。特にでんしこうがくはとても進歩しています。日本ではたくさんの人々がコンピュータをつかいます。これからもっと進歩すると思います。わたしはにっぽんばしへいってたくさん電器のみせを見ました。みせにはいろいろな電器があります。あんまり高くないです。

日本のさくらはきれいな花です。日本の国花です。わたしが日本についたときはさくらの花がさいていました。花がたくさんさいているときにはたくさんの人が花を見に行きます。さくらはひるも美しいですが、よるも美しいです。人々はさくらの花の下で歌を歌いました。そのほか富士山も有名です。富士山はきれいな山です。わたしはなつ休みに行きたいです。

日本は中国の友好のりんこくですから、いま日本でべんきょうしている中国人はたくさんいます。中国をりょこうする日本人もたくさんいます。わたしはいっしょうけんめいべんきょうして、そつぎょうしたあと中日間の友好の仕事をしたいです。

考えたことがありますか

バラローズ・ロハチット（タイ）

優秀賞（初級）

私の名前はバラローズ・ロハチットです。タイのバンコクから来ました。今年の九月に二十四才になります。私は日本に来る前にバンコクの大学の経済学部を卒業して、七ヶ月タイにある日本の会社につとめていました。私の家族は父と母、それに、兄と姉と私の五人です。私は温かい家庭に恵まれていると思っています。でも、この世界に私はたった一人の人間です。

ここから私の経験したことです。私は以前一人でうんてんしている時、道で人が何かしているのを見ました。もし私がもうそこにいなければあの人が次に何をするかわからないでしょう。みんなは自分の人生があるけどその時、私とその人は会う運命でした。

私は三月の二十三日に日本に来ました。三週間あと学校へ行く時にいつもの電車にのって電車事故を見ました。その日私は電車の一番前のせきにこしかけていて、すごくびっくりしました。電車の中の人たちもみんなびっくりしたようです。その時ある女の人が立っていました。私は彼女のびっくりした顔を見ました。彼女はわかくてきれいな女の人ですから覚えやすいです。私はその一日に気を落としていました。かえりはいつも毎日ちがう電車にのります。その日も電車の時間が決まっていませんでした。けれども、あのきれいな女の人と一緒の電車にのっていました。のる駅は私と彼女は同じではありません。なぜあの日に二回も会いましたか。外の日はあの女の人に会ったことがありません。世界中の人で数えきれないので会ったことのない人がいっぱいいます。けれども、あの日私はあの女の人と会いました。なぜですか。なぜあの事故が起きた日だけですか。ところで、私は五年前一年間ロータリーの留学生として日本に来ました。その時いろいろな外国人の友達ができました。みんなは今この世界のいろいろなところにいます。けれども、あの一年間私と一緒の交換留学生として友達になりました。もし、私が日本に来なければあの友達と会うことができなかったと思います。なぜ人はいつも新しい人に会いますか。なぜある人

と友達になりますがある人と友達になりませんか。たぶん私の質問にはだれも答えることができないと思っています。みんなはいろいろのこの世界のことがまだわかりませんから。今度何かする時にちょっと考えませんか。

窓の外の友達

劉　臻婕（中国）リュウ シンショウ

最優秀賞（中級）

理想を抱いて、自信を持って、日本へ来ました。私の新しい留学生活が二〇〇二年四月一日から始まりました。

私は運がよかったので、この学校の寮に住むことができました。この部屋は私の小世界です。きょうから一年、ここで一生懸命勉強をするつもりです。

寮の部屋は中国の私の部屋より小さいですが、その分勉強に集中できると思います。初めの一週間は毎日とてものんびりしていました。まず、自分の部屋を片付けて、近くのスーパーへ買い物に行きました。辺りのかんきょうにだんだん慣れてきました。

暇なときはつくえの前にすわって、窓をあけて新鮮な空気をいれます。すずしい風が時々私の頬を撫でるので、とても気持ちいいです。寂しい生活にいろを添えます。

外の竹が軽やかに揺れうごき、きいろとみどりの葉には日光が照らされてとてもきれいに見えます。ここに住んでよかったと思います。

四月十日は学校の授業が始まる日です。クラスへ行く途中で竹の子を三本見ました。小さくてくろい竹の子が出たばかりです。もう春ですか。植物の成長する時期なのです。

三日の勉強がおわりました。先生たちはみんなやさしいです。授業はおもしろくてやさしかったです。あとの二日は休みでした。帰る時は竹の子をまた見ました。ちょっと不思議だと思いました。三日前よりずいぶん高くなったんです。自然は本当に奇妙だと思いました。

二日の休みは毎日雨がすこし降りました。私は部屋に居て、どこへも行きませんでした。風がちょっと強かったです。竹は風に吹かれて揺れうごいていました。竹の葉は摩擦で、サラサラと美しい音がしていました。これは自然の声ですが、世界中一番きれいな音楽だと思いました。

竹の子の速い成長を見てから、それらの変化に関心を持ち始めました。四月十五日から毎日朝クラスへ行く時いつも竹の子を見たんです。竹の子は毎日すこしずつ高くなりました。私の日本語の知識も毎日増えていました。竹

の子は雨水を吸収して、日光に照らされます。私は毎日新しい文法を習って、暗唱文やかきとりをします。一緒にだんだん大きくなります。

その竹たちは私の友達のようです。私は家を懐かしむ時や、自信をちょっと失う時には竹の強い姿を見たら、すぐ元気が出ました。友達の竹に負けてはいけません。私は竹と同じぐらい強くなりたいです。

いまこの三本の竹の子はもう三階の高さぐらいになりました。私の窓から一本が見えます。辺りのほかの竹よりもっとみどりなのです。葉はまだありません。まだ成長しています。私も同じです。毎日一生懸命勉強をして成長しています。

私は来年の四月からは大学で勉強したいです。友達の竹、一緒に頑張りましょう！

日本語が好き

VUTHE JUE UHANG（ベトナム）ブティ　ジュ ウ ハン

優秀賞（中級）

わたしが初めて日本語を勉強したのは小学校三年生の時でした。父は仕事でわたしをつれて日本へ来ました。それでわたしは東京の小学校で勉強することになりました。毎日学校で日本人の友達と一緒に勉強したり遊んだりしていたので段々日本語が自然に話せるようになりました。

だが、二年後は父の仕事が終わって国に帰ることになりわたしも家族と一緒に帰らなければなりませんでした。せっかく、たくさんいい友達ができたのにもうお別れしなければならなくてとっても寂しくてたくさん泣きました。ベトナムに帰って日本語で話す機会はあんまりないので段々日本語を忘れてしまいました。けれどもわたしは日本語の勉強を止めたくないのでハノイの日本語センターで勉強しました。でも外国語はその国で勉強するのがもっともいいのでもう一度日本へ行きたいと思っていました。運よくわたしの夢が叶いました。父の仕事でまた日本へ来ることになりました。今度は東京ではなく大阪に来ました。小学校の頃の友達と会うことができなくて残念でしたがきっといつか会うことができると思います。

父は日本人の友達にわたしがどこで勉強すればいいか尋ねました。父の友達の話によると「関西国際学友会日本語学校」は関西で一番いい学校だそうです。それで今わたしはこの学校で勉強しています。学校の学生はみんな外国人なのでこれはもっといいことでしょう。たくさん友達ができました。そのおかげでいろいろの国のことを理解することができました。それはほんとに国では知ることができません。それに先生方もとっても親切な気持ちで授業をされます。ですからわたしは毎日楽しく勉強しています。またこのいい環境で勉強すればきっと日本語が早く上手になるでしょう。もちろん自分も頑張って勉強しなければなりません。前忘れた日本語も一生懸命勉強して新しい言葉を勉強することも必要です。日本語は本当におもしろいです。わたしの国の字はローマ字だけですが日本語は三種類の文字があります。「ひ

らがな」は読む、「漢字」は意味を知る。「かたかな」は外国の言葉を書くのに使います。わたしにとって漢字を勉強するのは大変ですけどおもしろいので段々好きになって来ました。

みなさんはきっとだれでも日本語を勉強する目的があるでしょう。わたしの目的は父のように外交官になることです。ベトナムと日本に関係がある仕事がしたいです。そのことをしたいならもっとたくさん頑張って勉強しなければならないと自分にいいきかせています。

本当に日本に来てよかったと思います。たくさんいい友達ができて色々日本のことを知りました。日本語もきっと上手になるでしょう。将来自由に日本語を使えるようになって日本とベトナムの関係をもっとよくしたいと思っています。これからも一生懸命勉強をして頑張ります。

平成十四年五月十九日

シンデレラ

姜　術　（中国）キョウ　ケン

優秀賞（中級）

　これは私が一番好きな物語なのです。むごい継母といつもけちをつけるお姉さんと一緒に生活するのは苦しみの繰り返しなのです。涙を飲まなければならないのにシンデレラは依然としてしっかりしていて、胸に希望と夢を抱いて日々を迎えるのです。そして清らかな心を持つ彼女は最終的に至上の幸福を手に入れました。人生の信念を曲げず絶望の底に陥らず生命に感謝する気持ちを持ち続ければ、最後に幸せはきっと捕まえられると心強さが物語から伝わって来ます。うるわしい物語だと心から思います。

　父は息子がほしかったのですが、娘として私が生まれました。そのせいかほかの子供のように甘やかされていなかったとなんとなく思えます。父は一度も物語を語ってくれなかったからかもしれません。そして、「お父さんのお気に入り娘、お休み」のような言葉を言って、おでこに口づけをしてもらったことも一度もありません。ですから、私は内向的な子供になりました。でんでんむしのような小さな部屋を背負って、潜在している危険を感じれば、すぐ細い触角をひっこめて、安全そうな家に引きこもって、身を隠します。幼い私は天真爛漫な子供ではありませんでした。いつも考えにふけっていて、何か間違いがあったかといつもオドオドしていました。そんな私はもちろん野心満々ではありませんでした。父と母と一緒に心長閑かに散歩することだけを望みました。でも残念なことに父は私のそんな小さな希望も果たしてくれませんでした。

　血も涙もない継母はシンデレラにたくさんのお皿を洗わせました。洗って洗って家事ばかりさせられていながら、その心にちっとも恨みがありません。日の光が窓から差し込んで、粗末な服を着ていても、シンデレラはやはり善良で美しい娘であるという事実は変わりません。小鳥が飛びながら鳴いて、春の朝花が咲きはじめて見ると、思わず顔に微笑が浮かび出すでしょう。

　海風がそよそよと吹き、しっとりとした涼しさを感じさせつつも、海の深さや広さに深く心を打たれます。私の

知っている私はそんな弱い人間ではないはずです。ですからもっともっとしっかりして、理想を持って、一生懸命がんばってみようと決意しました。現在の悲しみや苦しみもきっといつか懐かしい得がたい体験となると思いました。

捨てる神あれば拾う神あり、すばらしいメロディーがだんだんはっきりと聞こえてきます。シンデレラはきれいなガラスのくつをはいて、王子様と夢中に踊っています。私は感慨無量です。

そんな体験は人間を成長させます。時間が経つのはあまりにも早いのですが、私でも私なりに成長してここまできました。成功をおさめた時や作文が新聞にのった時、父はやはり私を誇りに思っていました。その時、よろこびと心の痛みの入り交じった複雑な気持ちで私はやっと泣き出しました。

人生は学校です。そこでは幸福より不幸のほうがよい教師です。自信と夢を持って努力をつづければ、必ず人生の時間から抜け出せ、幸運がきっとくるでしょう。

留学生活と私の理想

李　順（中国）リ ジュン

最優秀賞（上級）

時間がたつのは早いです。半年間は本当に短いと思いました。来日した夜の事がまるで昨日の事のように思い出します。私は両親への電話をかけ終わったばかりの時、「食べますか、あげますよ」と声をかけられて、私はびっくりしました。赤の他人のおじいさんがお弁当を下さるとは思いも寄らなかったですが、それをきっかけに、コンビニの前でおじいさんと知り合い、色々話しているうちに意気投合しました。「温かいうちに食べてよ」と言われ私は感激して、楽しく食べながら、田舎の祖父のような親近感を感じました。言葉は分からなくても、鉛筆と紙だけで十分でした。私達は夢のように話し込んでいて、いつしか朝になりました。「楽しかった」とおじいさんは涙を浮かべながら言いました。私は頭を深く下げておじぎをしておじいさんと別れました。私もおじいさんの忠告をしっかり胸に刻んでおきました。

それから、私は新しい留学生活が始まりました。子供の時から憧れていた国に留学ができて、夢のようです。日本は、外国とはいえ、ここは私にとって第二の故郷です。でも、外国で一人で暮らすのはたいていの苦労ではありません。私は日本へ来てはじめて生活がいかに苦しいものであるかが分かりました。辛酸を味わいながら、徳川家康の「人の一生は重い荷物を負って遠い道を行くようなものだ」と言った話をつくづく感じました。でも、私は充実した留学生活を過ごしたいので、「歳月人を待たず」を座右の銘として留学の時間を大切するようにしています。

私は毎日日本語学校に通っています。学校のどの先生も学生に親切です。私は困った時、先生の親切さが身にしみてうれしかったです。学校でたくさん友達ができて、日本の生活がいっそう楽しくなりました。私は相手の文化や習慣を尊重して、外国の友人と付き合っています。言葉に苦しみ、言葉に楽しみながら、まるで地球を散歩しているみたいです。先生と友達のおかげで、いろいろ勉強になりました。私は異文化を吸収しながら、自分も国際人の立場からいろんな問題を考え始めました。とにかく、私は日本語学校でどんどん成長してきました。

私は半年をたって、日本の生活になれましたが、まわりの人々にいろいろお世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。今考えれば、最初の生活はいくら苦しくても、自分の理想に向かって歩み続ける姿勢が大事です。そうです。私は理想を持って、日本へ来ました。

実は、日本へ来る前に私の気持ちはすごく複雑でした。一方、日本留学という子供の夢が実現して、とてもうれしかったです。一方、テロ事件は私の胸がえぐられるような悲しみを与えました。私は、心から、秋の夕暮れはなんとなく哀を感じました。しかし、日本へ来て、至る所でハトを見て、気持ちが明るくなってきました。なぜなら、ハトは平和の象徴であるからです。日本人民、全世界人民が平和を望んでいますが、なぜ実現しないのか、私は時々悩んでいます。

太陽は生物のために世の中のあらゆるのものを照らしています。これは愛です。もし地球上に愛がないと仮定したら、人間は生きていけないでしょう。だから人間はだれでも愛し合うという思想を大切にしています。私の場合は、おじいさんのような優しい日本人や友好的な外国の友人の存在があるからこそ、私の留学生活はすごく楽しくできました。今でもおじいさんと別れた時の場面がはっきり心に残っています。あの時のおじいさんの涙はなにを意味していたのだろう。それは人類愛の表現じゃないですか。

最初の留学生活は苦しい思いをしましたけれども、それは戦争で苦しんでいる人達とは比べられません。戦争中は食べ物も着る物もなく、地獄の生活です。ここまで考えると、私はいつも心から悲しくなってしまいます。

時代が推移するとともに、人々の考え方も変わりますが、でも、平和主義は永遠に人々の心に浸透しています。平和への願いは人類の総意です。

私は世界平和のために生涯をささげた人を心から尊敬しています。私もそのような人間になりたいです。私はこういう特別な理想をおびて日本へ来ました。いつ世界が平和になるのだろうか。私は心に太陽を持っています。

昨夜私は夢を見ました。私はおじいさん達と一緒に広島の平和大会に参加しました。私達は胸に「ＰＥＡＣＥ」と大きく書いたＴシャツを着て、ノーモアヒロシマを世界に訴えました。最後は私はハトになって青空を自由に飛び翔りました。

舞台面の輝き　舞台裏の汗

裴　暁阳（中国）ハイ ギョウヨウ

優秀賞（上級）

先日、私は幸運にも学校から年一回の宝塚観劇に選ばれました。日本ナンバーワンの歌劇団だそうですが、そういう目で見ると、たしかに目を見はるほどすばらしかったです。最後の歌は舞台上の俳優が歌い、舞台下の観衆は歌に合わせて拍手をし、その胸をわき立たせる場面は今でもくっきりと目に浮かんできます。そして、この劇の下稽古についてのパンフレットを読んでから、この劇の値打ちが更に一層わかりました。深い感動を受けると同時に、高校時代私が監督した小劇のことを思い出しました。

そろそろ高校卒業の時期が近づきました。最後の日本語の授業に日本人の新山先生はいつもと同じきれいな声で「皆さん、そろそろ卒業ですよね。十億人あまりの中国人の中で皆さんと出会ってとても楽しかった。あいうえおから始めてこの三年の間に皆さんの日本語はだんだん上手になりました。卒業の時、学校の先生と後輩に私達の成果を報告するためにクラス単位で、皆いっしょにちょっとした劇をしてほしいと思います。」と言うと私達はたちまち大騒ぎになりました。「あ、もちろん日本語でですよ。」皆は笑いました。「内容は自由です。他のクラスもやりますから、負けないように頑張ってくださいね。じゃ、だれが監督になったらいいかしら？」その時私は自分の力でどうしても、皆に何かいい思い出を残したいなぁと思い、あまり深く考えずに手を挙げました。「私にやらせてください。」と言いました。皆が私に注目しました。何秒ぐらいかの後で先生のほほえみとみなの拍手で私はその重責を負うことになりました。

次の日から、みなに「監督さん」と呼ばれたのでとても嬉しくてたまらなかったです。でも、日がたつにつれて、これはそんなに簡単なことじゃないことをだんだん強く感じました。

第一の問題は内容を選ぶことでした。皆なの意見を聞くために、何回もクラス会議をしましたが、そのたびに結果が違いました。いろいろ考えて、やっとディズニーの「風中の奇縁」と

いうアニメーションを劇としてすることにしました。その時持っていたせりふは長すぎて英語で書いてありました。英語から日本語に翻訳することはまだ高校三年生の私達にとってどんなに難しいことか。数日の授業の休憩時間と昼寝時間を利用して辞書を引き、皆なの努力と先生の応援のおかげで新しい日本語で書かれた台本がようやくでき上がりました。それを見ていた私はちょっと自慢でした。でもこれはただの始まりに過ぎなかったのです。

一番つらいのは下稽古をすることだと皆なそう言いました。その時ちょうど真夏の七月でした。疲れやすい気候にもかかわらず、下稽古を続けていました。毎日自習の時間だけ利用できましたから、昼御飯は皆な食堂で中華まんだけ買って、人があんまり通らない廊下で食べながら練習しました。こまかいところまで何回も何回も繰り返し練習して、退屈で疲れたはずです。監督としての私は登場人物の立場で劇を考えなければなりませんでした。身振り手振りで一人ずつ説明してやるにつれて、劇はだんだん完璧になり、またクラス皆なとの仲が深くなりました。

上演の日でした。校長先生を始め、教頭先生やたくさんの先生と学生が見に来ました。プレッシャーをはねのけるために、私は「今日はチャンスですよ。この劇から、誰かがスターになれるかもしれないよ。その時私を忘れないでね！」と言って、皆なを笑わせました。劇の最後にわれるような拍手の音が聞こえて、私達は成功だと心の中で叫びました。喜びに浸ると同時に始めから振り返って「舞台面の輝き、舞台裏の汗」ということもわかりました。

実は、こんなに心血を注ぎ尽くした劇でも私の人生にとっては取るに足りない一部分でしかないのです。人生も一つの大きな舞台じゃないか。人間はこの舞台で自分を輝かせるためにどんなにつらくても頑張り続けていかなければなりません。我々留学生もこの舞台で自分の役を演じているのではないでしょうか。国からも親戚からも離れ、日々の辛苦を誰にも知らせずに毎日一生懸命頑張っています。皆なの未来が輝きに満ちたものであるように私は心から祈っています。

高校の卒業式で、みんなで歌いました。

「ほら、足元を見てごらん、これがあなたの歩む道、ほら、前を見てごらん、あれがあなたの未来…」

楽しい地球村を作ろう

牛　童（中国）ニュー トン

優秀賞（上級）

世界がもし一〇〇人の村になったら、どのようになるのか。

六十一人はアジア人です。

十三人は南北アメリカ人で、

十三人はアフリカ人で、

十二人はヨーロッパ人で、

あとは南太平洋地域の人です。

十七人は中国語をしゃべり、

九人は英語を

八人はヒンディー語を

六人はロシア語を

六人はスペイン語をしゃべる。

そしてポルトガル語、日本語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、タイ語、韓国語……

これは最近人気のある本の中の文章の一部である。これを想像してみればみなさんはどんな感想を持つだろう。私は留学生として日本へ来てから、確かに自分はこのような地球村に住んでいると実感しているのである。六十一人のアジア人の一人として、十七人の中国語を話す一人として村の人々と友達になり楽しく暮らせる地球村の一員になった。

二十一世紀の世界はもう国際時代に入った。テレビや通信やインターネットなどのメディアを通じて世界各地の様々な情報が素早く世界の隅々まで伝えられる。しかし、「百聞は一見に如ず。」という諺通り、活字だけで情報を得ていては足りない。自分自身で国際交流をしなければ、国際社会に入った実感が充分に得られないと思う。

去年日本へ来て関西国際学友会日本語学校に入学してから、自分は視野が広がってやっと国際社会に入ってきたという実感が出てきた。私の学校はまるで凝縮した地球村だといっても過言ではない。三十か国以上の学生がここに集まっていて、肌の色が違い、それに文化や習慣や母国語が違っても一緒に楽しく勉強している。

私のクラスにはアメリカ人やタイ人や韓国人やカナダ人がいる。違った国の人と友達になり、彼らの国のことを知れば知るほど地球村の面白さが感じられるはずである。しかし、入学した当時、私達は日本語が殆ど分からなかったため、互いにうまく交流できなかった。そのときからコミュニケーションの中で両方に通じる言語の大切さを痛感した。日本語学校で日本語を習う以上、共通言語は当然日本語である。だからみんな一日も早く日本語が上手になりたいという気持ちが強く

なった。先生達が留学生の私達の気持ちをよく理解し、みんなに分かりやすいようにして、絵で説明したり、漢字と英語で書いたり、ボディー・ランゲージで表わしたりして教えると、僅か半年でみなは基本的な会話ができるようになった。先生達の外国人に教える能力の素晴らしさには本当に頭が下がる。

学生の私達はお互いに交流を深めるにつれてお互いの理解が深まってきた。一方、自分の国についても前は気がつかなかったことを沢山発見した。最も代表的なものは言語である。日本語のことばの多くの語源は中国から伝えられてきた。漢字で書いてあるのは大抵中国語と同じ意味である。だから中国人にとって漢字の習得はとても易しいと思う。漢字圏以外の国の学生は我が中国人が羨ましくて仕方がないらしい。「不公平だ！」とアメリカの学生はよく言ったが、彼女は日本語を勉強しているうちに絵のような漢字が好きになった。一方、文法は中国語と日本語は殆ど違うのである。助詞や動詞の変化や敬語などの日本語の中で重要な働きをしている文法は中国語の文法ではない。しかし、韓国語の中には同じような文法が存在する。だから、韓国人の学生は文法の習得が比較的易しいと思う。タイ語には文法があまりないので、タイの友人はよく英語と比べながら日本語を習う。英語と日本語の文法も相違点は多いが、たまに私も同じ方法で勉強している。実は方法は関係なく、よく理解して身につけたら、言葉の勉強は充分だと思う。

学校の近くに大阪国際交流センターがある。そこで言語、文化交流の掲示板に多くの日本人や外国人が様々な言語で書いたメッセージが沢山貼ってある。「日本語⇔英語」とか「○○語が話せる人と友達になりたい。」などがよく目につく。そこで外国の文化を理解するためにその国の新聞や雑誌をまじめに読んでいる人もいれば、外国語を練習するためにその国の人と会話をしている人もいる。時々国際的な新しいハイテク製品の展示会、美術や講演などの文化交流会が行われている。私はそこへ行くたびに色々の国の人と出会い、英語と日本語で話したり、中国語を教えたりすると自分はどこの国にいるのか分からなくなる。このように様々な国の人と交流し、国籍を考えずに友情が芽生えてくることは地球村でしかできないことであろう。

これから、私は外国語を母国語と同じようにうまく使えるよう、一生懸命勉強するつもりである。そして地球人としての認識や立場を持って色々なことに挑戦したい。楽しい地球村を作るために自分の力を貢献したいと思う。

親しい友達を作りましょう

イム シープ（カンボジア）

審査員特別賞（上級）

みなさん、考えてみて、今何にん友達がいますか。この質問は日本に来て以来よく自分に聞いています。まえは友達の事をあんまり考えなかったのですが、時間が経つとともにさびしい気持ちが多くなってきました。学校へ行くと先生や友達と勉強の事を相談したり雑談したりしてとっても楽しいのですが、家へ帰ると国の事が恋しくなるのです。十一月になって寒くなり始めると、カンボジアの暑い国から来ている私にとっては我慢できないほど国へ帰りたくなりました。そのひとつ原因は初めに思ったよりびっくりするぐらい寒かったことです。もうひとつ原因はアパートに住んでいる留学生はみんな中国人ですから、その時日本語があんまり分からなくて、中国語も全然分かりません。ですからみんなと友達になりたいけどとってもむずかしいです。もし自分の同じ言葉を使う友達がいれば、国の恋しさが少なくなると思います。例えば会った時、「おはようございます。」とか「お元気ですか。」とか言うだけの知り合いになることは難しいことではないと思います。けれども自分の気持ちを分かってくれてお互いに困ったことを手伝ってくれる親友の場合はまだ時間がかかるかもしれません。また、友達になってほしい場合は絶対同い年の人だけではありません。自分より若い人もできるしお年寄りもできると思います。それに自分の国の人だけじゃなくて外国人も国際交流することができると思います。

さて、どんなふうにすれば親しい友達ができますか。本当は私もまだ沢山の経験がありません。でもいい事をしたらきっといい事が返ってくると思います。相手にせいじつで、絶対わがままな事をしないで、またやさしい言葉を使って、相手の心を暖めてあげれば、遅かれ早かれ友達になれるはずです。私が毎日利用する電車は日本人を知るのに、ちょうどよい教室のようなものです。

ある日、中国人の友達と学校から家へ帰りました。上本町駅から、私たちがあいている座席を選びました。途中で大きい荷物を持って乗ってきたお二人のおばあさんを見て席を立ってすぐそのおばあさんがたのお手伝いをしました。おばあさんが電車に乗った時、あいている座席がないので私た

ちは自分の席に「どうぞおすわり下さい。」と言いました。最初、おばあさんはえんりょしていたみたいで私たちの顔を見て「いいえ、大丈夫。」だと断りました。私たちは「どうぞ、私たちはまだ若いです。」と言い張りました。これを聞いておばあさんはにこにこしながら「すみません、ありがとうございます。若い者はとってもやさしいですね」とおっしゃっておすわりになりました。電車の中にはたくさんの乗客がいたので、私たちと何もおしゃべりしませんでしたけど、じっと私たちを見ています。おばあさんがたの顔を見るとおばあさんはうなずいたり「どうも、すみません。」とおっしゃったりしました。それを見て、お年寄りに席をゆずってあげるのは当たり前なことと私は思っているのですが、おばあさんがたがとってもえんりょされていたので、私も大変きんちょうしました。ですから、おばあさんに見られないように少し遠い所へ行ってしまいました。でも、おりる弥刀の駅をでていると「お兄ちゃん、お兄ちゃん。」と呼ぶ声があります。振り返って見るとさっきのおばあさんがたがいたので私はびっくりしました。というのは私たちと同じ駅でそのおばあさんがたもおりると思わなかったからです。歩きながら、おばあさんといっしょに日本語でおしゃべりしました。私たちはおばあさんに私たちの国とか生年月日とか日本に来たことなど質問されました。一週間ぐらい経って、おばあさんから電話がかかってきて、もし私たちがひまならおばあさんの家に遊びに来てほしいとおっしゃいました。おばあさんは料理が上手でおいしい物を食べさせてくれるながらいろいろおしゃべりしました。おばあさんは日本の事を話して聞かせたり、また私たちも私たちの国の事を沢山話したりいい国際交流にもなって大変楽しかったです。おばあさんの家族はみんなあんまり大阪べんを使わないので、とっても分かりやすかったです。土曜日とか日曜日とかよく電話でいっしょうにどこかへ遊びに行こうとさそわれました。この時ほどよく日本語を使ったことはありませんでした。日本語の会話が以前よりうまくなったような気がします。

ですから友達が多ければ多いほどいいと思います。科学がすすむとともに国々が近くなって外国人の友達でもインターネットとかメールで会えます。

留学生の私にとっては、カンボジアに帰るまで沢山の外国人の友達を作っていこうと考えています。みんなさんも、日本語学校を卒業して、大学に進学したり、帰国したりするまでにできたら沢山の親しい友達を作ってください。

講　評

審査委員長　谷　　康平

今年の5月20日、東ティモール民主共和国が独立して第194番目の国家が誕生しましたが、世界には約6,000もの言語があります。そのうち日常的に使用されているものがおよそ2,000言語です。（世界最大のベストセラーにして最も多くの言語で発行されているバイブル（聖書）が約1,700言語）その中で最も文字数が多く、最も難しい言語と考えられている日本語という外国語の作文コンクールに参加した学生さん達の努力をまずたたえたいと思います。

第9回をむかえた日本語作文コンクールには過去最高の178名が参加されました。来日間もなく、まだ十分に日本語を習得していないはずの学生さん達の文章とは思えないほどの内容のものも多くみられ、各級の審査委員はみな嬉しい悲鳴をあげながら、選考作業に取り組みました、各級に非漢字圏出身の方の作品が選考されたのは驚きであると同時に喜びでもありました。

「百聞は一見にしかず」といいますが、おそらく大半の学生さん達は来る前に想像していた日本と実際に自らの心と身で感じた日本との間に大きな違いがあったはずです。いつの時代にも、どこにでもホンの一握りの悪人がいますが、世界中どこの国に行っても99%以上は良い人達です。

今回の作文コンクールに参加した学生さん達は勿論、日本に来ているすべての外国人の方々に、本当の日本の良さ（残っているかどうか少し不安ですが）を知っていただきたいという願いを込めてこの作文コンクールは次年度にバトンをゆだねます。

最後にもう一度参加者全員そして関西国際学友会日本語学校の関係者の方々の努力に対して大きな拍手と感謝を送りたいと思います。

有難うございました。

そして次年度も多くの方々の参加を期待しています。

第９回　日本語作文コンクール
審査委員会

委 員 長	谷　康平
副委員長	中村 浩一
委　　員	阿部 成之助
	小山 義之
	福地　悟
	中村 善尚
	秀島 博規
	織田 治久

（大阪鶴見ロータリークラブ
国際交流基金運営委員会 (2002/2003)